

岡山大学薬学部 FD白書

2008

岡山大学薬学部FD委員会

目 次

1. はじめに（竹内）
2. 新任・転任のためのFD講習会（竹内）
3. 授業改善のPDCAサイクル（竹内）
 - 3－1. シラバス（竹内）
 - 3－2. 教授法（佐々木）
 - 3－3. 授業評価（竹内）
 - 3－3－1. 学生による授業評価（杉本）
 - 3－3－2. 同僚による授業評価（中尾）
 - 3－3－3. 自己による授業評価（合葉）
4. FDフォーラムについて（竹内）
5. FDの未来（竹内）

1. はじめに（竹内）

岡山大学薬学部におけるFD委員会は、膨れ上がる教務委員会の業務の一翼を担う目的で平成14年度に発足したものの、初期の活動については、教務委員会とのすみわけが困難な事項も多く、手探り状態であった。翌年、第三者評価機関の勧告により、FD活動の実績が求められたことで、ベクトルが定まった。以来、大学院授業の実質化、「新任・転任教員のためのFD講習会」の開催、発生源入力によるシラバスシステムの構築、FDフォーラムの開催、および学生・同僚・自己の三者による授業評価アンケートの実施等、授業改善にPDCAサイクルを取り入れ、全学的にも先駆けた活動を行ってきた。FDの定義は、多種多様が見られるが、本委員会では、「FDとは、授業改善の方法とそのシステム構築」と捕えている。

年 度	FD委員会委員
平成20年度	佐々木健二，竹内靖雄（委員長），中尾浩史，合葉哲也，杉本幸雄，榎本秀一（後期よりオブザーバー）
平成19年度	佐々木健二（委員長），竹内靖雄，中尾浩史，合葉哲也，杉本幸雄
平成18年度	佐々木健二（委員長），竹内靖雄，中尾浩史，杉本幸雄
平成17年度	齋藤 寛，佐々木健二（委員長），竹内靖雄，中尾浩史
平成16年度	齋藤 寛（委員長），岡本敬の介，佐々木健二，竹内靖雄，中尾浩史
平成15年度	岡本敬の介（委員長），綿矢有佑，竹内靖雄，中尾浩史
平成14年度	綿矢有佑（委員長），岡本敬の介，片岡洋行，竹内靖雄

本委員会の特徴のひとつとしては、FD活動に不可欠な「学生の声」を組織的にさらには円滑に収集・検討するために、「薬学部学生・教員FD検討会」をFD委員会の下部組織として設立し、機能させていることである。本組織からの要望として実現したものに、「携帯電話アクセス可能な授業の休講・補講システム」や「学年・学科別メーリングシステム」があり、平成20年度には、学生参画型FDフォーラム「新授業を創ろう」を立案・実施した。

年 度	薬学部学生・教員FD検討会委員
平成20年度	安藤 誠(2年)，後藤祐子(2年)，清水康正(1年)，田中雄大(1年)，杉本幸雄(FD委員会)
平成19年度	後藤祐子(1年)，岡 大嗣(2年)，改田祐子(3年)，西川 宏(4年)，杉本幸雄(FD委員会)
平成18年度	岡 大嗣(1年)，改田祐子(2年)，西川 宏(3年)，前畑佑亮(4年)，杉本幸雄(FD委員会)
平成17年度	改田祐子(1年)，西川 宏(2年)，前畑佑亮(3年)，山中 文(4年)，中尾浩史(FD委員会)
平成16年度	西川 宏(1年)，森下健一(2年)，山中 文(3年)，難波卓司(4年次生)，竹内靖雄(FD委員会)
平成15年度	森下健一(1年)，山中 文(2年)，難波卓司(3年)，竹内靖雄(FD委員会) [準備委員会]

その他、本学部のFDの中核となるFD委員会の活動については、ホームページをご覧ください。

FD委員会ホームページ <http://www.pharm.okayama-u.ac.jp/com/FD/home.htm>

平成20年度のFD委員会では、過去7年間のFD活動の足跡を明文化することは、これまでのFD活動を見つめなおし、今後のFD活動の礎となる価値があると判断し、「岡山大学薬学部FD白書」を執筆・編集することにした。

2. 新任・転任のためのFD講習会（竹内）

「新任・転任教員のためのFD講習会」は平成15年9月から始まり、新任あるいは転任教員が就任した年度には必ず開催されている。ここでは、本学部におけるFD活動の紹介はもとより、FD委員会として一貫して訴えている事柄についての理解と協力を求めている。以下にその中の一部を引用する。

FD Forum

 **お伺いしますが…**

教員免許を持っていますか？

教育の精神・技術について学んだこともなしで講義することには、とまどいを持ったことはありませんか。



FD Forum

 **お伺いしますが…**

学生の学力低下をただ嘆くだけでしょうか？

「十分に教えたのだから、理解できない、忘れる学生が悪い」とただ嘆くだけでしょうか。ではあなたは、この問題解決のためにどのような努力をしましたか。



FD Forum

 **提案です。**

我々は、勿論、研究者です。しかし、同時に教育者でなければならないはずです。そろそろ教育について耳をふさぐことをやめにしませんか。



FD Forum

 **私(FD)からの提案**

教員の教育意識向上のために
公開講義の促進

シラバスの充実のために
G10, SB0s を記述する

形成的評価を取り入れるために
STシャトルカードの利用



FD Forum

 **僭越ながら、教育とは**

「教師が事実であると信じていることを学習者に話し伝えること」ではなく、
「学習者の行動(知識・技能・態度)に価値ある変化をもたらすこと」であり、
これは、**教授者も同時に変化すること**により、完結する。



FD Forum

 **最後をお願いします**

学生を愛してください。

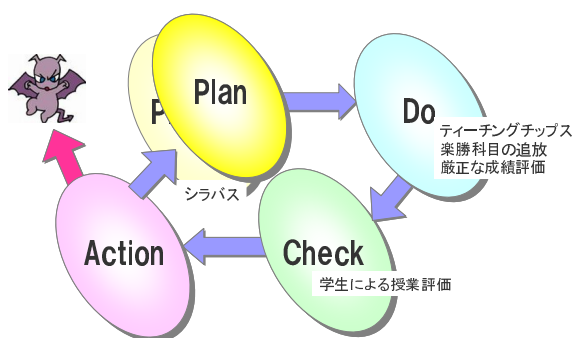
先生に愛されない学生が
誇りをもてるはずがありません。

大学にも学部にも、
そしてたぶん、**人生にも。**



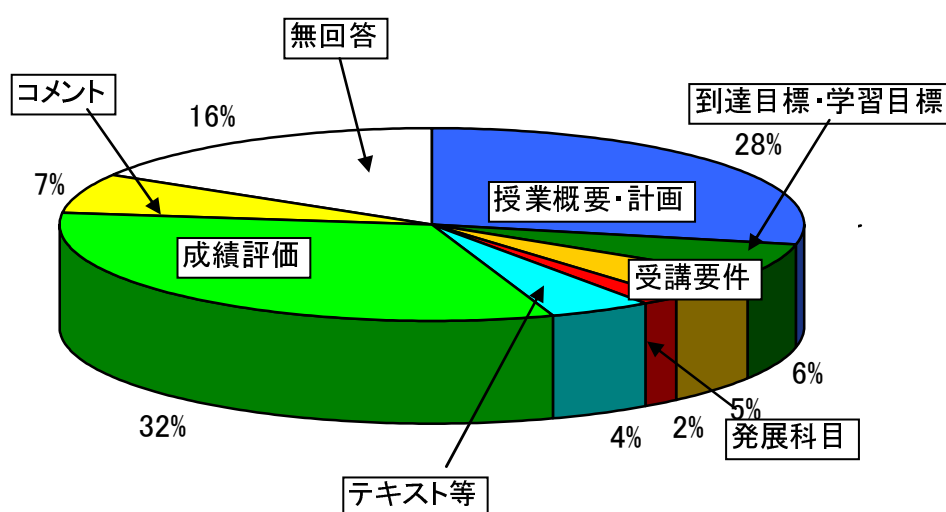
3. 授業改善のPDCAサイクル（竹内）

本学部授業は、Plan, Do, Check, Action を取り入れた PDCA サイクルによって改善を目指している。本委員会では、シラバス(P)や教授法(D)はもとより、評価(C)に特徴的な戦略を立案し、PDCA サイクルの中で最も重要な鍵を握る Action 部位の重点化を明示させることによって、次世代サイクルへの円滑な移行をサポートしている。



3-1. シラバス（竹内）

シラバスの定義には多くあるが、出生のアメリカでは、①事務的連絡文書、②法的契約書、③学術情報(参考文献)文書、④学習指導書の文書の4つの性格が備わっているものとされている。ここで共通な特徴としては、その公表対象が当該授業の受講者であることである。本委員会では、シラバスの「②法的契約書」に注目してきた。下図は、平成15年度の教養教育科目受講生(約 2,500 名)がシラバスに関するアンケートに回答した、「充実を望む」記述項目の集計結果である。「授業概要・計画」や「成績評価」といった授業の根幹をなす項目に希望が集中している。



<http://kymx.adm.okayama-u.ac.jp/hp/ou/pdf/ou-voice6.pdf>

一方、シラバスの名を騙って、受講者に不必要な情報データ項目を記載した「授業情報資源」が目立ってきた。最近では、日本薬学教育評価機構(準備委員会)から提出された「薬学教育シラバス」のように、教育実績の証拠(エビデンス)として利用するという、対象者だけではなく時系列さえ錯誤した紛いものも登場している。時空のベクトルを失ったシラバスは、今後どこまで都合よく組織利用されるのであろうか。学生のアンケート結果に答えるためにも、学生を置き去りにし、大学側に都合よく脚色された授業や評価のためのシラバスのデータベース化に歯止めを掛けるべきであろう。

シラバス記入上の注意事項

000000	シラバス記入上の注意事項 Note of Writing Method for Syllabus				
--------	--	--	--	--	--

学科	既入力	学年	既入力	種別	既入力
	既入力		既入力		既入力
学期	既入力	曜日・時限	既入力・既入力	単位	既入力

担当教員	既入力(変更がある場合は、加筆・訂正してください)	所属	担当教員の所属・職名を記入。
メールアドレス	公開している電子メールアドレスを記入	電話番号	市外局番から記入
オフィスアワー	指定曜日・時間・対応する場所(研究室など)・予約の可否等を記入		

授業の概要	授業の概要について、受講しようと思う学生が理解しやすい表現で記入する。
授業の目標	授業の到達目標について、受講しようと思う学生が理解しやすい表現で記入する。
授業計画	・毎回の授業スケジュールと内容の概略の記入を原則とするが、数回分ずつをまとめて記入することができる。 ・必要に応じて、到達目標をこの項目に記入することができる。 ・実際に授業を開講する時点で、シラバス作成時の計画が大きく修正される場合は、受講生が戸惑わないよう、初回の授業時などに、修正内容を明示的に伝える配慮が必要である。
テキスト等	【教科書】受講に必要な不可欠な教科書の書名・価格・出版社名等を紹介し、購入の取扱い店も記入する。 【参考書等】副教材として参照した方が望ましい参考書の書名・価格・出版社名等を紹介し、購入の取扱い店も記入する。また、図書館で利用できる参考図書があればそれらも記入する。
成績評価基準	到達目標との関連で、各自の成績評価がどのようになされるのか(出欠、小テスト、中間・期末試験、課題レポート、シヤトルカード・ポートフォリオの利用等)を、できるだけ具体的に明示する。
その他	【コメント】授業の水準、必要とされる予備的な知識・科目、受講生への要望・期待・注意事項などを記入する。 【研究活動との関連】講義内容が担当教員の行っている研究活動とどのように関連しているのかを記入する。

3-2. 教授法（佐々木）

FDは大学教員（ファカルティ）の資質や能力の向上を目指すことを目的とするもので、もともとは研究や大学教員のキャリア全体を含む職能開発の概念であった。その意味からも、「教授法」はFDの目的の根幹をなすものの一つであるといえよう。

大学においては、教員免許を持つ、専門的に教育の授業を受けてきた教員は少ない。従って、大学教員には、本来授業方法等についてはどこかで学ぶ機会があつてしかるべきだと思われるが、「大学教授職とは専門的自決性を持った専門職であり、従って高度の規範を内面化し、絶えず自発的に高度の基準を目指して自己の能力の開発・向上に努めているはずである。（山内乾史, *J. Higher Education and Lifelong Learning*, 7 (2000)）」という考えが基本にあるためか、教授法に関して他人（FD委員会）が口出ししにくい環境下であったことは間違いない。

そのような中、全学的な授業評価アンケートがスタートし、学生サイドの評価が明らかになってきたことから、学生の授業評価の高かった教員にその教授法のコツを聞くというフォーラムを開催し（第2回FDフォーラム）、これをきっかけに、教授法開発に関するFD委員会の活動が本格化して行った。そしてその活動を進める中で導かれた結論の一つが、自己の教授法改善には、他の教員の授業を見るのが一番効果的ということである。

FD委員会ではこの観点から、できるだけ多くの教員に、他の教員の授業を見る機会を作ろうと考え、以下のものを実施している。

1) 公開講座

薬学部では、平成15年度に全専門科目授業を公開授業とすることが教授会、教員会議で承認された。従って、教員の合意形成は完了しており、いつでもその授業を見ることができる。この公開授業のシステムも教授法開発の一環と位置づけしている。

2) 授業参観研修報告書（資料1, 2）

新規に授業を持った新任教員はもとより新規に授業を立ち上げた教員に関しても、今一度他の教員の授業を見てもらって、自己の授業に役立ててもらおうという目的で、平成19年度前期から授業参観研修報告書を書いてもらっている。特に新任教員には効果的な教授法であると考えている。

3) 同僚評価

詳細は他の項に譲るが、現在薬学部では教員の授業改善を目的に三種の評価者による授業評価アンケートを実施している。その中でも、同僚評価は、同僚の授業を見ることで人の授業を正しく評価する目と同時に、自己の授業と正しく評価する目と養うと共に、それを自己の授業改善に役立てて頂きたいと考えている。

岡山大学薬学部授業改善戦略
授業参観研修報告書

薬学部F D委員会

授業参観研修日	年 月 日 時限	参観時間	分間
科目名		担当教員名	
1. 本授業を参観研修した感想をコメントしてください。 2. 本授業を参観研修され、今後のご自分の授業に取り入れたいと思われた教授法について、コメントしてください。			

ご協力ありがとうございました。記入後の用紙はF D委員長宛にメール添付で送信ください。

岡山大学薬学部授業改善戦略 授業参観研修報告書

薬学部F D委員会

1. 本授業を参観研修した感想をコメントしてください。

1. 内容に関する事項

1-1. 映像（スライド、板書）関連

- ・ パワーポイントによる資料提示を基本として進めつつ、時折、学生の注意を教科書での記載内容へと導かれていて、学生を飽きさせない技術に感心した。
- ・ 板書、小テスト、分子模型の回覧による体験等、スライドだけに偏った講義を避けた。

1-2. 音声関連

- ・ 説明がゆっくりで聞きとり易かったです。

1-3. 資料関連

- ・ さらに、「例題」と称した小問題を講義中に提供することで、学生にとっては、理論の詰め込みという受動的なものだけでなく、その理論が実際にどのような局面において活用されるのかが実体験できるように工夫されていた。
- ・ 時折この内容が教科書のどこに記述されているかの指示はあったが、教科書はあくまで補足的なものという位置付けを感じた。
- ・ 前回までのシャトルカードの記述内容を検討し、その中から見出された学習内容の補充箇所を復習した。
- ・ シャトルカードに記載された前回の学生の意見を今回の授業に反映させている。
- ・ 宿題プリントを与え、解答は、インターネット開示する。
- ・ 教科書を上手く用いた講義だと思いました。
- ・ 授業の初めに、前回の授業内容に関する小テストを行い、前回の授業に対する学生の理解度を確認している。
- ・ 講義はパワーポイントによるものであるが、その内容をプリントにして学生へ配布しており、
- ・ 教科書に記載以外の補足事項をプリントに加え、学生の授業内容理解に役立っている。

1-4. その他

- ・ まるで全ての行為がプログラム化されているかの、円滑に進められていた。
- ・ 内容的に、分野的に関連した興味深い話を取り入れ、説明、解説が具体的であった。
- ・ 1つの授業で学生に対して教えるべきことを過不足無く教えると共に、学生の不足していた知識を上積みするためには、教員自身が豊富な知識と共に確固とした信念を持って教えなければならないことを再確認させて頂いた授業であったと思っている。
- ・ 省略しても良い事項、省略してはいけない事項等についての取捨選択に関しては、〇〇先生の教員としての哲学並びに長年の授業経験に基づいたものであると考えられる。
- ・ 小テスト実施中に学生の回答を見回することで、解答の説明方法を調整した。
- ・ 限られた講義時間を如何にうまく使うかが非常に重要であることを今回の授業参観研修で実感

し、大変有意義な時間であった。

2. 授業環境に関する事項

- ・ エアコンが適度に効いていて集中し易い講義環境でした。

3. 成績評価に関する事項

2. 本授業を参観研修され、今後のご自分の授業に取り入れたいと思われた教授法について、コメントしてください。

1. 内容に関する事項

1-1. 映像（スライド、板書）関連

- ・ プロジェクターと共に板書も多用する（学生に出来るだけ構造式を書かせる）こと

1-2. 音声関連

- ・ 学生を見ながらゆっくりとしゃべること
- ・ 話す声の聞きとりやすさ、テンポを取り入れたい。

1-3. 資料関連

- ・ シャトルカードをうまく使うこと
- ・ シャトルカードは順番に揃え、学生番号順のグループ分けして、前机から配付する。
- ・ 教科書の記述を補完もしくはより詳細に説明する講義形式は参考になりました。
- ・ パワーポイントを用いた講義の場合、学生がパワーポイントの内容に集中でき、出来るだけ考える時間を学生に与える為に、すべての内容をプリントにして事前に配布することとする。

1-4. その他

- ・ 学生を飽きさせない技術、授業の構成の工夫、例題を組み込むことによる、一方向性ではなく双方向性の授業の構築、といった部分は是非見習いたいと思います。
- ・ 学生からの反応を見極めながら、話すスピードを調節するといった工夫も非常に重要だと感じました。
- ・ 本授業ではSB0の書かれた全国統一基準のような教科書がなまじっかあるだけに、始めてこの教科を担当する身には、なかなかその内容を見逃しはしづらいところが正直ある。従って、教科書のエッセンスのみを教えるという××先生の方法をどの程度参考に出来るのか（実行できるのか）分からないが、まずは色々な方法を真似ながら修正して行きたいと考えている。
- ・ 講義内容にメリハリを付ける。
- ・ 授業の途中に休憩を挟むこと
- ・ 授業のはじめに、わかりやすく、本日の授業の重要なポイントを学生に伝えておけば、授業の内容が、頭に入ってくる。
- ・ なかなか、言葉では表現できませんが、良い勉強になりました。
- ・ 小テストは学生番号順に着席させ、試験中に前回の試験用紙を学生に返却する（授業時間を有効に活用している）

ご協力ありがとうございました。記入後の用紙はFD委員長宛にメール添付で送信ください。

3-3. 授業評価（竹内）

本学部 FD 委員会では、全国・全学に先駆け、以下のような授業改善戦略案を掲げ、トライアルも含めて現在進行形で、授業評価を推進している。

岡山大学薬学部授業改善戦略 三種の評価者（学生・同僚・自己）による 授業評価アンケートの実施について

薬学部FD委員会

岡山大学薬学部では、「学生による授業評価アンケート」（以下、学生評価アンケートと称す）は、教員の授業改善および学部の教育改善を目的として、実習を含む全ての授業で実施されている。一方、学生評価アンケートには、「受講者数の少ない科目が高得点になる傾向にある」、「楽勝科目が高得点になる傾向にある」、「オムニバス授業科目では、教員個々の授業改善につながりにくい」、「ほとんど出席していない学生のアンケート結果も含まれている」等の学生からの評価だけでは、必然的な解決不能の問題を抱えるため、授業評価のための尺度としては正確さに欠けるとする声は多い。さらには、現行の「学生評価アンケート」が真に授業改善に繋がっているのかについての全学レベルでの検証は全く進んでいない。本学部においても、他学部と同様、全学的な動向の渦中で、学生評価アンケートを実施しているものの、数値結果が暴走ぎみに一人歩きするという弊害を残しているだけで、アンケート結果を「授業改善や教育改善に利用する」という本来の目的およびその意識が薄れつつあるのが現状である。

今回のFD委員会からの第一の提案は、「学生評価アンケート」結果が検証可能な、新しい「学生評価アンケート」を実施するというものである。これは、個々の学生に、前の学期に受講した専門科目の中で、最も満足した科目および最も不満足であったものを3科目ごと選択させること、および、当該科目の成績開示後に実施することに特徴を有し、現行の学生評価から得られた結果を、相対的尺度から検証でき、学生が満足あるいは不満足と判定した科目の特徴について成績との相関を含めて解析可能となる。

岡山大学中期目標・中期計画の平成18年度年次計画では、授業評価の新規基準として、「同僚評価」を取り入れることが謳われている。本計画は、教育改善を目指した授業評価方法として、学生だけを対象としたアンケート評価だけに留まらず、教員（同僚）を対象としたアンケート評価を加え、両者の結果から判断するという点で高く評価できるものである。平成15年度に本学部における全専門科目は、公開授業とすることが教授会、教員会議で承認されている。第二の提案は、これを受け、「同僚評価アンケート」を実施するというものである。

第三の提案は、上述の学生・同僚評価に、「自己評価のための授業調査アンケート」を加えることによって、アンケートを学生・同僚・自己の三者から実施し、これまで学生評価の側面からしか判断できなかった授業を、総合的・多面的に判断できるように改訂し、教員の授業改善および学部全体の教育改善への喚起を促すことを目指すものである。

三種の評価者による 授業評価アンケート



なお、本取り組みは、平成20年度の学長裁量経費の「研究教育プロジェクト」に採択された。

平成20年度学長裁量経費（教育研究プロジェクト等）計画書

部局等名：薬

職 名	教授	氏 名（代表者）	竹内靖雄	要 求 額	9,500 千円
区 分 (該当区分に○)	☒ 1. 教育研究プロジェクト外経費 ☐ 2. 地域貢献支援事業費 ☐ 3. 大学改革推進経費 ☐ 4. 国際交流等経費				
プロジェクト等の名称	三者の評価者(学生・同僚・自己)による授業評価を基盤とした授業改善戦略				
計画概要	岡山大学では、教員の授業改善および大学・学部教育改善を目的として、「学生による授業評価アンケート」(以下、学生評価アンケートと称す)が実施されている。一方、本アンケートは、学生からのみの評価基準であることから、必然的な解決不能の問題を抱えるため、<u>授業評価のための真の尺度としては正確さに欠ける</u>とする声は多い。さらには、『現行の学生評価アンケート結果が真に授業改善に繋がっているのか』についての全学レベルでの<u>検証は全く進んでいない</u>。本学部においても、全学的な動向の渦中で、全学的なマークシート式の学生評価アンケートを実施しているものの、数値結果が暴走ぎみに一人歩きするという弊害を残しているだけで、アンケート結果を「授業改善や教育改善に利用する」という<u>本来の目的およびその意識が薄れつつある</u>のが現状である。 そこで、高い精度・確度を担保できる、<u>三者(学生・同僚・自己)の評価者による授業評価を実施し、これらの結果を有機的に繋げて検証し、授業改善を行う</u>ための戦略を提案する。				
期待される成果	新しく立案した「学生による授業評価」は、当該学期の成績開示後に全学生を対象に、受講科目の中で最も満足したものおよび最も改善を要望したいもの、それぞれの3科目(以内)を理由付で選択できるアンケートを実施し、これを集計・解析することに特徴がある。このアンケートから得られた結果からは、<u>対象科目を相対的尺度から検証でき</u>、学生が満足あるいは要改善と判定した<u>科目の特徴についての解析が可能</u>となる。さらに、本評価に、同僚(ピアレビュー)さらには自己を対象とした評価を有機的に繋げることによって、これまで学生評価の側面からしか判断できなかった授業を、<u>総合的・多面的に判断できる</u>ことから、高い精度・確度を担保しつつ、<u>教員の授業改善および学部全体の教育改善への喚起を促す</u>ことができるようになる。 なお、本戦略は、すでに<u>本学部で平成18年度より実践中</u>であり、本取り組みのさらなる飛躍と全学・全国的な波及を期待して応募した。				
中期目標・計画との関連	【中期目標】3)教育の質の改善に関する基本方針教員の教育活動を適切に評価し、その結果を教育の改善に資するためのシステムを構築する。【中期計画】②教育の改善を図るため、大学・学部・研究科の自己点検、第三者評価、学生による授業評価、教員の個人評価等を有機的かつ積極的に利活用するための基本方針を策定し、評価結果を適切にフィードバックして、教員の教育についての取り組みの強化を図る。【平成20年度年度計画】50 各研究科は、引き続き、ピアレビュー等のFD活動などにより教育内容の精選と先進化を図る。				
代表者の過去2年間の外部資金申請状況	科学研究費補助金の申請状況	☒ 有 ☐ 無	有の場合の種目・課題	平成 20, 19年度 基盤B, 挑戦的萌芽	
	科学研究費補助金以外の申請状況	☒ 有 ☐ 無	有の場合の件名	平成 20, 19年度 シーズ発掘試験研究(他5件)	
関係教員等	氏 名	所 属	職 名	役 割	分 担
	竹内 靖雄	医歯薬学総合研究科	教授	統括	
	佐々木健二	医歯薬学総合研究科	教授	情報処理担当	
	中尾 浩史	医歯薬学総合研究科	准教授	同僚評価担当	
	杉本 幸雄	医歯薬学総合研究科	准教授	学生評価担当	
	合葉 哲也	医歯薬学総合研究科	准教授	自己評価担当	
要求額内訳	区 分	員 数	単 価	金 額	備 考
	情報収集サーバ	1	2,100千円	2,100千円	SPARC Enterprise M3000
	クライアントPC	37	200千円	7,400千円	ノートパソコン



3-3-1. 学生による授業評価（杉本）

【概要】

薬学部では、「学生による授業評価アンケート」（以下、学生評価アンケートと称す）は、原則的に全ての授業で実施されている。一方、この学生評価アンケートには、「受講者数の少ない科目」および「楽勝科目」が高得点になる傾向を有すること、および試験もしくは成績開示前に実施されることなど様々な問題点が指摘されている。さらに、現行の学生評価アンケートが真に授業改善に繋がっているのかについての全学レベルでの検証は全く進んでいない。本学部においても、アンケート結果を「授業改善に利用する」という本来の目的が薄れつつあるのが現状である。そこで、FD委員会として薬学部独自の検証可能な新しい「学生評価アンケート」を実施することにした。これは、学年毎に前の学期に受講した全授業科目の中で最も満足できた授業科目および改善すべきと思う授業科目をそれぞれ0～3科目選択させ、その理由および改善方法について回答させるものである。本アンケートは、完全無記名であること、および当該科目の成績開示後に実施することに特徴を有し、1学年1学期毎に相対的尺度から検証でき、学生が満足あるいは改善すべきであると判定した科目の特徴についても解析できる。平成18年度後期開講科目を対象に開始し、一部内容を改善しながら、これまで計4回実施した。

【平成18年度後期開講科目対象アンケート】

本アンケートは、平成18年度後期を対象に開始した。すなわち、平成19年4月に新2、3および4年生に対して、前の学期（平成18年度後期）に受講した授業科目の中で最も満足できた授業科目および改善すべきと思う授業科目をそれぞれ0～3科目選択させ、その理由および改善方法について自由記述形式で回答させた（資料1）。アンケート結果を集計し、FD委員会で検討した結果、学年毎に、満足できた授業科目（当該年次全科目）の主な理由および改善すべきと思う授業科目（当該年次全科目）の主な理由について、それぞれ5項目（割合付）と満足できた授業科目（上位3科目：順不同）とその主な理由3項目を記載した用紙1枚を教員会議で発表することとした（資料2）。

【平成19年度前期開講科目対象アンケート】

本アンケートは、後期を対象に開始したことから、平成19年度前期開講科目についても同様の方法で実施することにした。すなわち、平成19年度10月に1、2および3年生に対して、前の学期（平成19年度前期）に受講した授業科目の中で最も満足できた授業科目および改善すべきと思う授業科目をそれぞれ0～3科目選択させ、その理由および改善方法について自由記述形式で回答させた（資料1）。アンケート結果を集計し、前回と同様にまとめた資料を教員会議で発表した（資料3）。また、FD委員会で検討した結果、前回も含めて、個別にアンケート結果の開示を希望する教員に対しての文言「平成18年度後期開講科目および平成19年度前期開講科目の担当教員で、個別のアンケート結果の開示を希望する方は、FD委員長まで申し出てください。担当された授業科目のサマリーをお知らせ致します。」をアンケート結果の末尾に追加した。

【平成19年度後期開講科目対象アンケート】

本アンケートを2回実施し、自由記述の回答内容に一定の傾向が認められたことから、特にその傾向が強かった「満足できた授業科目」の理由回答欄に6個のチェックボックスを作成した。なお、チェックボックス以外の理由にも対応するために、7個目のチェックボックスとして、その他（自由記述）欄は残した。「改善すべきと思う授業科目」の理由については、チェックボックスを作成するほどの傾向が認められなかったもので、これまで通りにすべて

自由記述とした。また、この時から、薬学科と創薬科学科を区別して解析する目的で、それぞれの学科のチェックボックスを追加した(資料4)。

本アンケートは、新2および3年生に対しては問題なく実施できたが、平成20年度から唯一の4年生対象授業であった総合薬学演習Ⅰが夏期開講になり、新4年生に対しての実施が困難になった。そこで、教務係に協力を依頼し、各研究室に配属された学生に対して、書面でアンケート依頼し、教務係に提出してもらう方法で実施することにした(資料5)。

アンケート結果を集計し、前回と同様にまとめた上で、学生にとって満足度の高い授業を積極的に授業参観してもらう目的で、平成19年度前期開講科目についても満足できた授業科目(上位3科目:順不同)とその主な理由を教員会議用資料に記載することにした(資料6)。

また、今回初めて薬学科と創薬科学科の相違点について検証した(資料7)。

【平成20年度前期開講科目対象アンケート】

前回と同様のアンケート内容で、平成20年10月に1, 2および3年生に対して実施した。アンケート結果を集計し、FD委員会で検討した結果、教員会議提示用資料を改善することにした。まず、これまでの学年毎を改めて、満足できた授業科目(当該年次全科目の3学年全体)の主な理由6項目(割合付)および改善すべきと思う授業科目(当該年次全科目の3学年全体)の主な理由5項目(割合付)を開示することにした。また、満足できた授業科目について、各学年毎に上位5〜7科目を開示することにした(資料8)。

今回初めて、大学院の授業について学生評価アンケートを実施した。対象は博士前期課程概論科目の薬品科学概論で、最も満足できた講義(0〜3講義)および改善すべきと思う講義(0〜3講義)とその理由および改善方法についてアンケートした(資料9)。アンケート結果を集計し、満足できた授業科目(担当者名)上位3科目と、満足できた授業科目の内容(上位3項目)および改善を要すると評価された内容(上位3項目)を教員会議で提示した(資料10)。

【今後の展望】

本アンケートを定期的に実施していくことは、継続的な評価が可能になり、授業改善の効果を判断する上で重要な指標に成りうる。これからも基本的な内容に関しては変更せず、必要に応じてバージョンアップを図りながら実施していく予定である。実施方法に関する課題としては、新学期に全員を集めることが困難な創薬科学科の4年生に対しての対応を検討する必要がある。授業改善へのフィードバックとしては、アンケート結果の一部について学内限定webへの開示が承認されたことから、これまで以上に波及効果が期待できる。今後、前期および後期の定期アンケートのみならず、必要に応じて大学院や担任セミナーなどの個別の学生評価アンケートも実施するなど、そのフォーメーションを増やしていく予定である。

岡山大学薬学部授業改善戦略

学生による授業評価アンケート

薬学部FD委員会

(1) 学年をチェックしてください。

☐ 1 年次生 ☐ 2 年次生 ☐ 3 年次生 ☐ 4 年次生 ☐ その他(2) 前の学期で受講した授業科目の中で、最も満足できた授業科目を 0 ～ 3 科目選び、それぞれの理由について記述してください。

科目名			
理由 (自由記述)			

(3) 前の学期で受講した授業科目の中で、最も改善すべきと思う授業科目を 0 ～ 3 科目選び、もし、あなたがこの授業の担当者ならば、どこをどのように改善するかを記述してください。

科目名			
改善方法 (自由記述)			

ご協力ありがとうございました。

岡山大学薬学部授業改善戦略

学生による授業評価アンケート

薬学部F D委員会

平成18年度後期開講科目について

満足できた授業科目(当該年次全科目)の主な理由

- 1年次: ▼授業がわかりやすい(27.2%) ▼要点が整理されている(14.1%) ▼板書がわかりやすい(9.8%) ▼見学型授業である(9.8%) ▼役に立つ(8.7%)
- 2年次: ▼授業がわかりやすい(28.8%) ▼プリントがわかりやすい(15.2%) ▼授業が面白い(8.3%) ▼授業が楽しい(6.8%) ▼役に立つ(6.1%)
- 3年次: ▼臨床のことが学べる(16.1%) ▼学生主体の体験授業である(14.5%) ▼授業がわかりやすい(12.7%) ▼授業が面白い(12.7%) ▼国家試験対策(9.1%)

改善すべきと思う授業科目(当該年次全科目)の主な理由

- 1年次: 要点がはっきりしない(24.5%) ▼授業がわかりにくい(22.6%) ▼板書がわかりにくい(19.8%) ▼授業が聞き取りにくい(18.9%) ▼授業のペースが速すぎる(11.3%)
- 2年次: ▼授業がわかりにくい(12.3%) ▼授業と教科書の関連がない(10.8%) ▼プリントがわかりにくい(9.2%) ▼要点がはっきりしない(7.7%) ▼試験時間が短い(7.7%)
- 3年次: ▼プリントがわかりにくい(25.0%) ▼授業の目的がはっきりしない(16.7%) ▼要点がはっきりしない(13.9%) ▼急に休講になる(11.1%) ▼スライドがわかりにくい(8.3%)

満足できた授業科目(上位3科目: 順不同)とその主な理由

1年次

生物化学Ⅱ: ▼授業がわかりやすい ▼板書がわかりやすい ▼要点が整理されている

微生物学: ▼要点が整理されている ▼興味がわく ▼専門的知識がつく

薬品物理化学Ⅰ: ▼授業がわかりやすい ▼プリントがわかりやすい ▼板書がわかりやすい

2年次

製剤学: ▼プリントがわかりやすい ▼授業がわかりやすい ▼小テストがある

生物物理化学: ▼授業がわかりやすい ▼演習問題がある ▼プリントがわかりやすい

有機反応化学: ▼授業がわかりやすい ▼プリントがわかりやすい ▼これまでの復習になる

3年次

薬効解析学Ⅲ: ▼国家試験対策 ▼授業が面白い ▼要点が整理されている

臨床医薬品治療学Ⅱ: ▼授業がわかりやすい ▼臨床のことが学べる ▼小テストがある

臨床薬学: ▼学生主体の体験授業である ▼臨床のことが学べる ▼授業が面白い

岡山大学薬学部授業改善戦略

学生による授業評価アンケート

薬学部F D委員会

平成19年度前期開講科目について

満足できた授業科目(当該年次全科目)の主な理由

1年次: ▲授業がわかりやすい(31.6%) ▲スライドがわかりやすい(15.2%) ▲インターネットの活用など工夫(13.9%) ▲教員の熱意(11.4%) ▲質問に対する対応(11.4%)

2年次: ▲見学がある(26.3%) ▲授業がわかりやすい(20.2%) ▲プリントがわかりやすい(7.0%) ▲演習問題がある(7.0%) ▲興味がわく(6.1%)

3年次: ▲授業がわかりやすい(28.7%) ▲興味がわく(11.5%) ▲小テストがある(10.7%) ▲スライドがわかりやすい(8.2%) ▲プリントがわかりやすい(6.6%)

改善すべきと思う授業科目(当該年次全科目)の主な理由

1年次: ▼授業がわかりにくい(27.6%) ▼教科書(プリント・スライド)を読むだけ(17.2%) ▼授業が聞き取りにくい(8.6%) ▼要点がはっきりしない(8.6%) ▼授業の難易度が高すぎる(8.6%)

2年次: ▼授業がわかりにくい(16.3%) ▼要点がはっきりしない(16.3%) ▼授業の内容が多すぎる(15.1%) ▼試験の内容(11.6%) ▼ペースが速い(10.5%)

3年次: ▼評価の基準がはっきりしていない(22.9%) ▼資料配布のタイミング(14.3%) ▼授業の目的がはっきりしない(10.5%) ▼試験が難しい(6.7%) ▼スライドがわかりにくい(4.8%)

満足できた授業科目(上位3科目: 順不同)とその主な理由

1年次

有機化学Ⅰ: ▲授業がわかりやすい ▲スライドがわかりやすい ▲インターネットの活用

物理化学: ▲質問に対する対応 ▲授業がわかりやすい ▲評価が公平

薬用植物学: ▲スライドがわかりやすい ▲プリントがわかりやすい ▲小テストがある

2年次

人体解剖学: ▲見学がある ▲興味がわく ▲専門知識がつく

薬品物理化学Ⅱ: ▲演習問題がある ▲プリントがわかりやすい ▲授業がわかりやすい

感染症治療学: ▲興味がわく ▲要点が整理されている ▲スライドがわかりやすい

3年次

病院薬学: ▲授業がわかりやすい ▲臨床のことが学べる ▲興味がわく

生物薬剤学: ▲授業がわかりやすい ▲興味がわく ▲授業が面白い

薬物治療学Ⅰ: ▲小テストがある ▲授業がわかりやすい ▲スライドがわかりやすい

平成18年度後期開講科目および平成19年度前期開講科目の担当教員で、個別のアンケート結果の開示を希望する方は、FD委員長まで申し出てください。担当された授業科目のサマリーをお知らせ致します。

岡山大学薬学部授業改善戦略

学生による授業評価アンケート

薬学部F D委員会

- 前学期の主な開講科目は裏面に記述しています。これらの科目以外でも該当科目があれば記述してください。
- 本アンケートは、学期末に行うマークシートでの数値アンケートとは以下の点で異なります。
 - ①完全無記名；②記述欄有り；③科目毎でなく学生毎；④成績開示後に実施

(1) 学科をチェックしてください。

【学科】 ☐ 総合薬学科 ☐ 薬学科 ☐ 創薬科学科 ☐ その他

(2) 前学期で受講した全授業科目の中で、最も満足できた授業科目を0～3科目選び、それぞれの理由について、チェック（複数可）あるいは記述してください。

科目名			
理由	☐ スライドがよかった ☐ 配布資料がよかった ☐ 重要点が強調されていた ☐ 将来必要な知識が修得できた ☐ 授業の進め方がよかった ☐ 担当教員に熱意があった ☐ その他（自由記述）	☐ スライドがよかった ☐ 配布資料がよかった ☐ 重要点が強調されていた ☐ 将来必要な知識が修得できた ☐ 授業の進め方がよかった ☐ 担当教員に熱意があった ☐ その他（自由記述）	☐ スライドがよかった ☐ 配布資料がよかった ☐ 重要点が強調されていた ☐ 将来必要な知識が修得できた ☐ 授業の進め方がよかった ☐ 担当教員に熱意があった ☐ その他（自由記述）

(2) 前学期で受講した全授業科目の中で、最も改善すべきと思う授業科目を0～3科目選び、もし、あなたがこの授業の担当者ならば、どこをどのように改善するかを記述してください。

科目名			
改善箇所 改善方法			

ご協力ありがとうございました。

岡山大学薬学部授業改善戦略
学生による授業評価アンケート

薬学部F D委員会

4年生のみなさんへ

薬学部F D委員会では、授業改善戦略の一環として薬学部独自の「学生による授業評価アンケート」を実施しています。4年次生に対して昨年度の後期開講科目についてのアンケートを実施したいと思いますので、下記アンケートに回答の上、配布した封筒に本用紙を戻し、4月18日までに教務学生係に提出してください。また、同封の「研究室配属に関するアンケート」も同様に回収したいと思いますので、よろしくお願いします。なお、両アンケートとも完全無記名で実施しますので、提出されたアンケート用紙は、直ちに封筒から回収し、個人の特定はされません。

- 前学期の主な開講科目は裏面に記述しています。これらの科目以外でも該当科目があれば記述してください。
- 本アンケートは、学期末に行うマークシートでの数値アンケートとは以下の点で異なります。

①完全無記名；②記述欄有り；③科目毎でなく学生毎；④成績開示後に実施

(3) 学科をチェックしてください。

【学科】 ☐ 総合薬学科 ☐ 薬学科 ☐ 創薬科学科 ☐ その他

(2) 前学期で受講した全授業科目の中で、最も満足できた授業科目を0～3科目選び、それぞれの理由について、チェック（複数可）あるいは記述してください。

科目名			
理由	☐ スライドがよかった ☐ 配布資料がよかった ☐ 重要点が強調されていた ☐ 将来必要な知識が修得できた ☐ 授業の進め方がよかった ☐ 担当教員に熱意があった ☐ その他（自由記述）	☐ スライドがよかった ☐ 配布資料がよかった ☐ 重要点が強調されていた ☐ 将来必要な知識が修得できた ☐ 授業の進め方がよかった ☐ 担当教員に熱意があった ☐ その他（自由記述）	☐ スライドがよかった ☐ 配布資料がよかった ☐ 重要点が強調されていた ☐ 将来必要な知識が修得できた ☐ 授業の進め方がよかった ☐ 担当教員に熱意があった ☐ その他（自由記述）

(4) 前学期で受講した全授業科目の中で、最も改善すべきと思う授業科目を0～3科目選び、もし、あなたがこの授業の担当者ならば、どこをどのように改善するかを記述してください。

科目名			
改善箇所 改善方法			

ご協力ありがとうございました。

岡山大学薬学部授業改善戦略

学生による授業評価アンケート

薬学部F D委員会

平成19年度後期開講科目について

満足できた授業科目(当該年次全科目)の主な理由

1年次:▲授業の進め方がよかった(40.3%) ▲重要点が強調されていた(33.6%) ▲配布資料がよかった(32.8%)

▲将来必要な知識が修得できた(32.8%) ▲担当教員に熱意があった(32.8%)

2年次:▲重要点が強調されていた(53.3%) ▲授業の進め方がよかった(40.8%) ▲配布資料がよかった(35.5%)

▲担当教員に熱意があった(32.2%) ▲将来必要な知識が修得できた(28.9%)

3年次:▲重要点が強調されていた(49.5%) ▲将来必要な知識が修得できた(49.5%) ▲授業の進め方がよかった(43.3%) ▲担当教員に熱意があった(43.3%) ▲スライドがよかった(22.7%)

改善すべきと思う授業科目(当該年次全科目)の主な理由

1年次:▼要点がはっきりしない(16.5%) ▼板書がわかりにくい(12.9%) ▼内容が多すぎる(11.8%)

▼難易度が高すぎる(8.2%) ▼授業がわかりにくい(7.1%)

2年次:▼要点がはっきりしない(26.5%) ▼授業がわかりにくい(13.3%) ▼プリントがわかりにくい(12.2%)

▼試験が講義内容を反映していない(8.2%) ▼聞き取りにくい(7.1%)

3年次:▼要点がはっきりしない(23.8%) ▼プリントがわかりにくい(21.4%) ▼聞き取りにくい(9.5%)

▼プリントが多すぎる(9.5%) ▼講義の準備が悪い(7.1%)

満足できた授業科目(上位3科目:順不同)とその主な理由

平成19年度前期開講科目について

1年次

有機化学Ⅰ:▲授業がわかりやすい▲スライドがわかりやすい▲インターネットの活用

物理化学:▲質問に対する対応▲授業がわかりやすい▲評価が公平

薬用植物学:▲スライドがわかりやすい▲プリントがわかりやすい▲小テストがある

2年次

人体解剖学:▲見学がある▲興味がわく▲専門知識がつく

薬品物理化学Ⅱ:▲演習問題がある▲プリントがわかりやすい▲授業がわかりやすい

感染症治療学:▲興味がわく▲要点が整理されている▲スライドがわかりやすい

3年次

病院薬学:▲授業がわかりやすい▲臨床のことが学べる▲興味がわく

生物薬剤学:▲授業がわかりやすい▲興味がわく▲授業が面白い

薬物治療学Ⅰ:▲小テストがある▲授業がわかりやすい▲スライドがわかりやすい

平成19年度後期開講科目について

1年次

生理学:▲授業の進め方がよかった ▲スライドがよかった ▲重要点が強調されていた

微生物学:▲将来必要な知識が修得できた ▲担当教員に熱意があった ▲重要点が強調されていた

有機化学Ⅱ:▲配布資料がよかった ▲スライドがよかった ▲重要点が強調されていた

2年次

医薬品構造解析学:▲重要点が強調されていた ▲授業の進め方がよかった ▲配布資料がよかった

衛生薬学Ⅰ:▲重要点が強調されていた ▲授業の進め方がよかった ▲担当教員に熱意があった

製剤学:▲重要点が強調されていた ▲配布資料がよかった ▲授業の進め方がよかった

3年次

薬効解析学Ⅲ:▲重要点が強調されていた ▲スライドがよかった ▲将来必要な知識が修得できた

臨床医薬品治療学Ⅱ:▲担当教員に熱意があった ▲将来必要な知識が修得できた ▲重要点が強調されていた

臨床薬学:▲将来必要な知識が修得できた ▲担当教員に熱意があった ▲授業の進め方がよかった

平成19年度前期開講科目および平成19年度後期開講科目の担当教員で、個別のアンケート結果の開示を希望する方は、FD委員長まで申し出てください。担当された授業科目のサマリーをお知らせ致します。

○薬学科と創薬科学科の相違点について

1年生

「満足できた」上位科目の傾向は、ほとんど同じであった。

「満足できた」は、すべての科目において差が5ポイント以内であった。

「改善すべき」は、生薬学Ⅰ(薬(選択科目Ⅰ)9:創(選択科目Ⅰ)1)で差が最大の8ポイントであった。また、薬品物理化学Ⅰ(薬(選択科目Ⅰ)3:創(選択科目Ⅰ)11)で差が逆の最大の8ポイントであった。さらに、英語(薬11:創5)も差が6ポイントあった。他の科目は差が5ポイント以内であった。

2年生(薬学科)

衛生薬学Ⅰ(17)

製剤学(13)

医薬品構造解析学(13)

漢方処方学(12)

癌の生物学(1)

2年生(創薬科学科)

衛生薬学Ⅰ(13)

製剤学(9)

医薬品構造解析学(9)

有機反応化学(9)

癌の生物学(9)

漢方処方学(1)

2年生

「満足できた」上位科目の傾向は、ほとんど同じであった。

「満足できた」は、漢方処方学(薬(選択科目Ⅰ)12:創(選択科目Ⅱ)1)で差が最大の11ポイントであった。

癌の生物学(薬(選択科目Ⅱ)1:創(選択科目Ⅱ)9)で差が逆の最大の8ポイントであった。他の科目は差が5ポイント以内であった。

「改善すべき」は、生体防御機能学Ⅰ(薬(選択科目Ⅰ)11:創(選択科目Ⅰ)4)で差が最大の7ポイントであった。他の科目は差が5ポイント以内であった。

○チェックボックスの復活でアンケートがどう変わったのか、意見に収束が見られたのか？

すべての学年および学科において上位5位以内に6個のチェックボックスが選ばれていたことから、充分意見が収束されていると考えられる。また、複数のチェックボックスをチェックしている学生も多く、短時間に行うアンケートとして、この方法は有用であったと思われる。

岡山大学薬学部授業改善戦略

学生による授業評価アンケート

薬学部FD委員会

平成20年度前期開講科目について

満足できた授業科目(当該年次全科目の3学年全体)の主な理由

- ▲ 重要点が強調されていた (44.5%)
- ▲ 授業の進め方がよかった (41.9%)
- ▲ 担当教員に熱意があった (41.0%)
- ▲ 将来必要な知識が修得できた (37.8%)
- ▲ 配布資料がよかった (31.6%)
- ▲ スライドがよかった (19.2%)

改善すべきと思う授業科目(当該年次全科目の3学年全体)の主な理由

- ▼ 重要点がわからなかった (18.6%)
- ▼ スライドを写すことが大変だった (8.3%)
- ▼ 用意した教科書, スライド, プリントなどを読むだけだった (7.9%)
- ▼ 授業方法および評価方法に一貫性がなかった (6.2%)
- ▼ 板書の字が読みにくかった (6.2%)

満足できた授業科目

1年次	2年次	3年次
有機化学Ⅰ	人体解剖学	生物薬剤学
生物化学Ⅰ	生物統計学	医薬品開発学
物理化学	感染症治療学	ゲノム創薬学
コミュニケーション入門Ⅰ	生物化学Ⅲ	医薬化学Ⅰ
生物学:入門からやさしい応用まで	有機化学Ⅲ	癌薬物治療学
	薬品物理化学Ⅱ	機能性天然素材学
		分子細胞生物学

平成20年度前期開講科目の担当教員で、個別のアンケート結果の開示を希望する方は、FD委員長まで申し出てください。担当された授業科目のサマリーをお知らせ致します。

学生による授業(薬品科学概論)評価アンケート

薬学部F D委員会

- 薬品科学概論の開講講義は裏面に記述しています。
- 本アンケートは、学期末にマークシートで行う数値アンケートとは以下の点で異なります。
①完全無記名 ②自由記述 ③科目毎でなく学生毎 ④成績開示後に実施

(1) 学年をチェックしてください。

☐ 修士1年次生 ☐ 修士2年次生 ☐ その他

(2) 前の学期で受講した薬品科学概論の講義の中で、最も満足できた講義を0～3講義選び、それぞれの理由について記述してください。

教員名			
理由 (自由記述)			

(3) 前の学期で受講した薬品科学概論の講義の中で、最も改善すべきと思う講義を0～3講義選び、もし、あなたがこの講義の担当者ならば、どこをどのように改善するかを記述してください。

教員名			
改善方法 (自由記述)			

ご協力ありがとうございました。

岡山大学薬学部授業改善戦略
学生による授業評価アンケート

薬学部FD委員会

平成20年度博士前期課程概論科目（薬品科学概論）について

1. 満足できた授業科目(担当者名)上位3科目

製薬企業が望む人材(三浦 朗)

製薬企業における新薬研究開発戦略(浮田一信)

ちょっと使える統計学(黒田照夫)

2. 満足できた授業科目の内容

1位:役に立った

2位:わかりやすかった

3位:内容がよかった

3. 改善を要すると評価された内容

1位:研究内容だけだった

2位:面白くなかった

3位:専門的すぎて分からなかった

平成20年度博士前期課程概論科目（薬品科学概論）の担当教員で、個別のアンケート結果の開示を希望する方は、FD委員長まで申し出てください。担当された授業科目のサマリーをお知らせ致します。

3-3-2. 同僚による授業評価（中尾）

FD委員会からの第二の提案である「同僚評価」は平成18年前期に提案された。FD委員会では、次のような3段階で執り行うことを決定した。

1. 評価するアンケート項目、基準などを確立する
2. FD委員がレビュアーとなり、1. について修正を行うとともに、レビュアーの視点・方向性の標準化を図る
3. FD委員がレビュアーの教員（伝道者）となり、段階的に薬学部全教員をレビュアーとする

平成18年度後期はFD委員の教員4名（竹内、佐々木、杉本、中尾）が自らレビュアーとなり、自分たちの講義に対する評価を行い、プレトライアルを行った。その結果、評価は、内容理解に関する事項（映像関連、音声関連、資料関連、その他）、事業環境に関する事項、成績評価に関する事項の4事項に分類できることが分かり（資料4）、これに基づき平成19年度の同僚評価トライアルを行った。

平成19年前期（資料1）は3つの講義についてFD委員会5名（竹内、佐々木、杉本、中尾、合葉）により、評価トライアルを行った。その結果、評価者の方向性が非常に異なっていることが分かり、後期には、被評価者の授業・教育改善につながる評価（資料5）を心がけることとした。アンケート用紙については、前述の項目について「評価者も取り入れているが、授業改善に繋がると考える事項」「評価者も取り入れているが、FDの考え方や講義分野によって、評価が分かれると思われる事項」「評価者は取り入れていないが、授業改善のためにも、積極的に取り入れたい事項」「評価者は取り入れていないが、FDの考え方や講義分野によって、評価が分かれると思われる事項」に分け、客観的に評価を行うこととした。

平成19年後期（資料2）には、3つの講義について、FD委員会5名により、評価トライアルを行った。しかし、同じ客観的事項を捉えながら、相反する意見となり、被評価者を混乱させる可能性が考えられた。そこで、もう一度「被評価者の授業改善につながる評価」を念頭に授業評価を行うこととした。

平成20年前期（資料3）には4つの講義について、FD委員会5名による評価トライアルを行った。その結果、「レビュアー」による同僚評価の方向が大筋でそろってきたことが確認された。

平成20年後期はこの方向性の最終確認及び細部調整を行うために、前期と同様な評価基準で4つの講義の評価を行っている。

平成21年度前期は、現在までのトライアルによってFD委員をレビュアーとする段階は終了したと判断し、レビュアーの育成に入る。FD委員1名に対し、新たなレビュアーを1名割り当て、マンツーマンでレビュアーの育成を行う。同時に、これまで行っていなかった専門家から見た講義の評価項目を加えることとした。

平成19年度前期 同僚評価トライアル実施報告

FD委員会同僚評価実施担当
竹内靖雄

平成19年度前期の同僚評価トライアルは、FD委員会委員が評価者を務め、予め担当者から承認を得た授業を参観後、各評価者の意見を収集した評価書に基づいて検討した。トライアル評価の評価は、被評価者にとって、授業改善する意欲・意識が向上できるような評価書を作成できるかという点に主眼を置いた。

第1回トライアル

対象科目 薬効解析学Ⅱ(亀井千晃教授担当, 3年次対象)

参観日時 平成19年4月16日(月2)および平成19年4月23日(月2)

評価方法 教授法に関して、「高く評価できる事項」、「改善を要する事項」、「総合的事項」の3種に分けてFD委員会委員の評価を求めた。

結 果 評価者の評価の不慣れさが露見した結果に終わった。同じ客観的事項を捉えながら、相反する意見となり、被評価者を混乱させるものも、最終的に作成された評価書の内容は、被評価者への客観的な事項の伝達や改善意欲を与えるものから程遠い結果となった。

第2回トライアル

実施科目 薬剤学(木村聰城郎教授担当, 2年次対象)

参観日時 平成19年5月8日(火2)および平成19年5月15日(火2)

評価方法 第1回の検討に基づき、評価者間あるいは被評価者との考え方の相違を回避するため、客観的事項だけを抽出する作業を中心にし、評価者の意見は二次的記述とした。

結 果 抽出できた事項は、「1. 評価者が始めて出会った新しい事項, 2. 評価者が実施し、教授法として正しいと信じている事項, 3. 教授法として正しいと思えない事項」の大きく3種に分類できた。しかし、2, 3においては、別の見方もあることから、ここでも、評価の困難さを痛感することとなった。

第3回トライアル

実施科目 薬用植物学(伊東秀之准教授担当, 1年次対象)

参観日時 平成19年5月11日(金1)および平成19年5月18日(金1)

評価方法 第1, 2回の検討に基づき、評価書を以下の様式とした。

- ◎ FD力向上のためにも、評価者が積極的に取り入れたい事項
 - FD向上に繋がると考え、評価者も取り入れている事項
 - △ 個人的な主観や講義分野によって、評価が分かれると思われる事項
 - × 個人的な主観や講義分野によらず、問題があると思われる事項
- (灰色) 評価意見詳細

1. 内容理解に関する事項

1-1. 映像(スライド, 板書)関連 , 1-2. 音声関連, 1-3. 資料関連 , 1-4. その他

2. 授業環境に関する事項

3. 成績評価に関する事項

結果 主観の入らない問題抽出は不能であることから、評価マークの×は、不必要であることがわかった。第1回目に比べると、被評価者から耳を貸していただける何かはあるように思えたが、評価書内容が信用あるものとして受け入れられるレベルへは、まだまだ評価者のFD力不足は否めなかった。

総括と展望

耐え難きを耐え、忍び難きを忍んでいただいた、3名の先生方に衷心よりお礼申し上げます。後期トライアルも、FD委員会から一本釣りをし、ご依頼の承認をいただいた授業科目を中心に続けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。同僚評価やレビューワーカーの育成に関するご提案・ご意見があれば、FD委員会(担当、竹内)にお寄せください。

平成19年度後期 同僚評価トライアル実施報告

薬学部FD委員会

(平成20年1月7日FD委員会承認)

平成19年度後期の同僚評価トライアルは、前期と同様に、[授業改善する意欲・意識が向上する評価書の作成](#)という点に主眼を置き、FD委員会委員が評価者となり、授業参観後評価書の作成という作業のトライアル(3回)を行った。今期の新企画としては、ご担当の教員に、作成した同僚評価書の内容を評価していただき、フィードバックすることにより、評価意見の検証を行った。

第4回トライアル

対象科目 毒性学(成松鎮雄教授, 3年次生対象)

参観日時 平成 19 年 10 月 1, 17, 24 日 (火 1)

評価方法 評価書を以下の様式とした。

- 評価者も取り入れているが、授業改善に繋がると考える事項
 - ▲ 評価者も取り入れているが、FDの考え方や講義分野によって、評価が分かれると思われる事項
 - 評価者は取り入れていないが、授業改善のためにも、積極的に取り入れたい事項
 - △ 評価者は取り入れていないが、FDの考え方や講義分野によって、評価が分かれると思われる事項
(灰色) 評価意見詳細
1. 内容理解に関する事項
 - 1-1. 視覚(スライド, 板書)関連 , 1-2. 聴覚関連, 1-3. 資料関連 , 1-4. その他
 2. 授業環境に関する事項
 3. 成績評価に関する事項

第5回トライアル

対象科目 衛生薬学 I (埴岡伸光准教授, 2年次生対象)

参観日時 平成 19 年 10, 11 月 (金 2)

評価方法 第4回と同じ。

第6回トライアル

対象科目 薬品物理化学 I (勝孝教授, 1年次生対象)

参観日時 平成 19 年 10, 11, 12 月 (月 4)

評価方法 第4回と同じ。

評価書の評価アンケート

以下の3項目についてアンケートを行った。

1. 提出した評価書のコメントの中で、今後の授業の改善に繋がる、あるいは繋げる気になった有益なコメントがあれば、抜き出し、理由を付記してください。
2. 提出した評価書のコメントの中で、なぜそのような指摘がされたのか不明であり、それが授業改善にどう繋がるのか不明なコメントがあれば抜き出し、理由を付記してください。
3. 同僚評価は中期目標・中期計画に明示されている以上、何らかの具現策を講じなければなりません。本学部で実施している方略あるいはそれ以外の具現化案について、ご助言・ご意見・コメントがあれば記述してください。

総括と展望

前期と同様、耐え難きを耐え、忍び難きを忍んでいた、3名の先生方に衷心よりお礼申し上げます。今回の新しい試みとしてご回答いただいた「評価書の評価アンケート」から、好意的に捕らえていただいていることから、本評価方法としては、[間違った方向に進んでいない](#)ことを再確認できました。しかし、FD委員委員の評価書意見を詳細に解析しますと、同じ教授内容・技術におきましても相反するものがあり、レビュアーとしての未成熟さを示すものとして、まだまだ「レビュアーの育成」は進行中であり、[トライアルの継続の必要性](#)を痛感しました。平成20年度前期トライアルも、FD委員会から一本釣りをし、ご依頼の承認をいただいた授業科目を中心に続けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。[同僚評価やピアレビューの育成](#)に関するご提案・ご意見があれば、FD委員会(担当、竹内)にお寄せください。

平成20年度前期 同僚評価トライアル実施報告

FD委員会同僚評価実施担当

中尾浩史

平成20年度前期の同僚評価トライアルは、FD委員会委員が評価者を務め、予め担当者から承認を得た授業を参観後、各評価者の意見を収集した評価書に基づいて検討した。前年度に引き続き、トライアル評価の評価は、被評価者にとって、授業改善する意欲・意識が向上できるような評価書を作成できるかという点に主眼を置いた。今回のトライアルの対象は助教の先生方とした。

第7回トライアル

対象科目 医薬品化学Ⅰ（西岡弘美助教担当，3年次対象）

参観日時 平成20年4月24日（木3）

第8回トライアル

実施科目 生物化学Ⅳ（高橋栄造助教担当，2年次対象）

参観日時 平成20年4月24日（木5）および平成20年5月8日（木5）

第9回トライアル

実施科目 薬用植物学（谷口抄子助教担当，1年次対象）

参観日時 平成20年5月16日（金1）～平成20年6月27日（金1）

第10回トライアル

実施科目 感染症治療学（小川和加野助教担当，2年次対象）

参観日時 平成20年6月17日（火2）

評価方法 前年度までの結果を参考に評価書を以下の様式とした。

- 評価者も取り入れているが，授業改善に繋がると考える事項
 - ▲ 評価者も取り入れているが，FDの考え方や講義分野によって，評価が分かれると思われる事項
 - 評価者は取り入れていないが，授業改善のためにも，積極的に取り入れたい事項
 - △ 評価者は取り入れていないが，FDの考え方や講義分野によって，評価が分かれると思われる事項
- （灰色） 評価意見詳細
1. 内容理解に関する事項
 - 1-1. 視覚(スライド, 板書)関連 , 1-2. 聴覚関連, 1-3. 資料関連 , 1-4. その他
 2. 授業環境に関する事項
 3. 成績評価に関する事項

評価書の評価アンケート

以下の3項目についてアンケートを行った。

1. 提出した評価書のコメントの中で、今後の授業の改善に繋がる、あるいは繋げる気になった有益なコメントがあれば、抜き出し、理由を付記してください。
2. 提出した評価書のコメントの中で、なぜそのような指摘がされたのか不明であり、それが授業改善にどう繋がるのか不明なコメントがあれば抜き出し、理由を付記してください。
3. 同僚評価は中期目標・中期計画に明示されている以上、何らかの具現策を講じなければなりません。本学部で実施している方略あるいはそれ以外の具現化案について、ご助言・ご意見・コメントがあれば記述してください。

総括と展望

耐え難きを耐え、忍び難きを忍んでいただいた、4名の先生方に衷心よりお礼申し上げます。ご回答いただいた「評価書の評価アンケート」から、いくつかの問題点も得られましたので、後期トライアルではさらなる改善に努めたいと思います。後期も、ご依頼の承認をいただいた授業科目を中心に続けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。[同僚評価やレビューワーの育成](#)に関するご提案・ご意見があれば、FD委員会(担当, 中尾)にお寄せください。

岡山大学薬学部授業改善戦略

同僚による授業評価アンケート

薬学部F D委員会

科目名		担当教員名	
参観日時	平成 年 月 日 (火) 5 時限	参観場所	
参観者名		参観時間	分

1. 本講義が、専門教育科目としてふさわしい内容であるかの点からコメントしてください。

(専門的な意見・コメントが可能な場合にのみ記述ください)

2. 上記以外の、本講義についてお気づきの点をコメントしてください。。

(黒色) 客観的事実・現象 (灰色) 評価者の主観的感想・意見

1. 内容理解に関する事項 (すべてに回答する必要はありません)

1-1. 視覚(スライド, 板書)関連

1-2. 聴覚関連

1-3. 資料関連

1-4. その他

2. 授業環境に関する事項

3. 成績評価に関する事項

ご協力ありがとうございました。

同僚による授業評価アンケート結果に対する感想アンケート

薬学部F D委員会

科目名		担当教員名	
-----	--	-------	--

同僚による授業評価アンケート（トライアル）にご協力頂きありがとうございました。F D委員会が作成した評価結果については、別紙で提出させていただきます。F D委員会では、これをご一読された感想をお伺いし、そのご意見を基づいて同僚評価の在り方を検証し、今後のF D活動に活かしたいと考えておりますので、重ね重ね恐縮ですが、以下のアンケートに御協力を、よろしく、お願い申し上げます。

1. 評価書のコメントの中で、今後の授業の改善に繋がる、あるいは繋げる気になった有益なコメントがあれば、抜き出し、感想・意見を付記してください。
2. 評価書のコメントの中で、なぜそのような指摘がされたのか不明であり、それが授業改善にどう繋がるのか理解できないコメントがあれば抜き出し、感想・意見を付記してください。
3. 同僚評価は中期目標・中期計画に明示されている以上、何らかの具現策を講じなければなりません。本学部で実施している方略あるいはそれ以外の具現化案について、ご助言・ご意見・コメントがあれば記述してください。

ご協力ありがとうございました。回答後は担当（竹内）まで送信ください。

3-3-3. 自己による授業評価（合葉）

薬学部 FD 委員会では、学生がより満足できる授業を行うことを目的に、三種の評価者による授業評価アンケートを行っている。本節の自己評価のための授業調査アンケート（以下、授業調査アンケート）はこうしたアンケートの一環として年 2 回、通常各期末考査の終了時にあわせて実施されており、その対象は期間中に専門科目の講義を一部でも担当した教員である。授業調査アンケートは回答を強制しない任意回答のスタイルで行われているものの、回答率は極めて良好であり、毎回対象教員のほぼ全員から回答を頂いている。これは岡山大学薬学部には以前から何等かの形により授業を評価するというシステムが存在しており、教員側の授業評価に対する抵抗感が少なかったという背景があったことに加え、アンケート項目を明確に授業改善に関係するものに絞り込んだこと、そしてその自己評価方法も主観的なスケール形式、例えば、「配布資料の分かりやすさ」という項目については、「今後改善したい」から「まあまあ」および「特に問題なし」の範囲の線分上で、最も自分の考えに近い部分に○を記入していただくという、非常に自由に回答しやすい形式を導入した結果であると考えている。なお、こうしたアンケート項目を絞り込む作業に先立って、各教員を対象に「各人が個人的にどのような授業改善を実際に行っているか」という自由記述式アンケートを行っている。その中で多くの教員が「分かりやすい授業のために必要である」と考えていた項目が授業調査アンケートにも含まれている項目、即ち、「配布資料や板書の分かり易さ」「学生の理解度の応じた抗議のスピード調節」「重要事項の適切な強調」であった。これらは先に杉本委員が記しているように、学生が感じる良い授業の構成要素にも含まれている。なお、授業調査アンケートには上述のような項目に加えて完全な自由記述式の項目もあり、教員によって主張や方針が異なる項目に関する幅広い意見や考えを述べていただけるように工夫されている。これらは、学生の理解度を把握する方法や学生の理解度を深めるための独自の工夫を尋ねる項目である。これらの項目に対する回答内容を整理収集することは、各教員の授業に対する考え方や薬学部全体の「雰囲気」を推し量るための資料を得ることになるばかりでなく、教員の優れた授業技術を学部の技術財産として掘り起こして共有することを可能とするものであり、結果として授業の質の底上げにつながる事が期待できる。なお、こうした授業調査アンケートを有意義なものとするためには教員の協力が不可欠である。このためにはアンケートが授業改善のためだけに用いられることを十分に理解し信頼していただくことは勿論のこと、得られたアンケートの結果を実際に授業の改善に役立つ形で各教員にフィードバックとしていく活動が欠かせない。前者については、アンケートの集計結果等の開示方針、すなわち、回答者に有利であれば積極的に開示し、不利であれば FD 委員会内での開示に留めること、また、各教員からの回答内容は FD 委員会の活動範囲内のみで評価して、無関係な領域で教員の活動を拘束しないことを、これまでと同様に各 FD 委員が平素から意識することが必要であろう。後者のフィードバック活動については、三種の評価が始まったばかりである現段階では、それぞれの評価の有機的関連性が必ずしも活かされてはいない。今後は本授業調査アンケートの集計結果を、学生および同僚による授業評価の内容と合わせて総合的に評価方法を構築していく必要がある。

添付資料 1：自己評価のための授業調査アンケートのアンケート用紙と集計結果

添付資料 2：自己評価のための授業調査アンケートに先立って行われたトライアルアンケートの結果

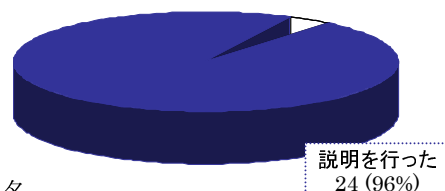
資料1

授業改善のための自己評価アンケート集計資料

実施期間 平成 20 年度前期開講科目（アンケート提出期限：平成 20 年 8 月 25 日）

提出者 25 名（のべ 48 教科）

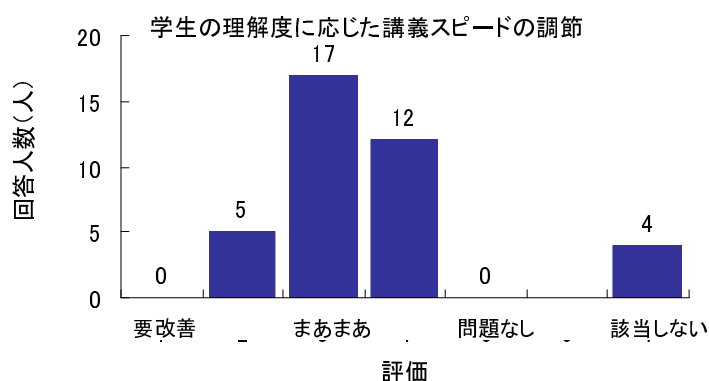
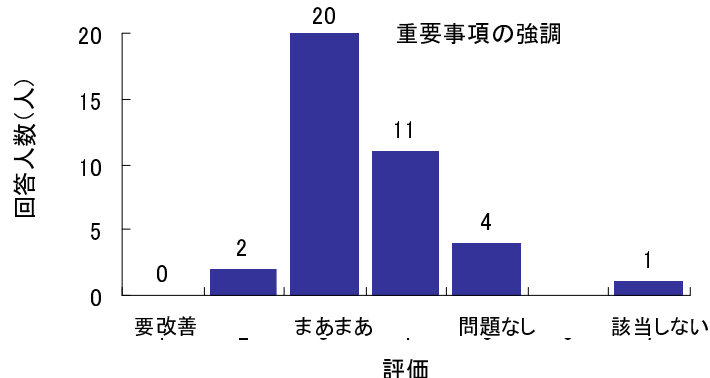
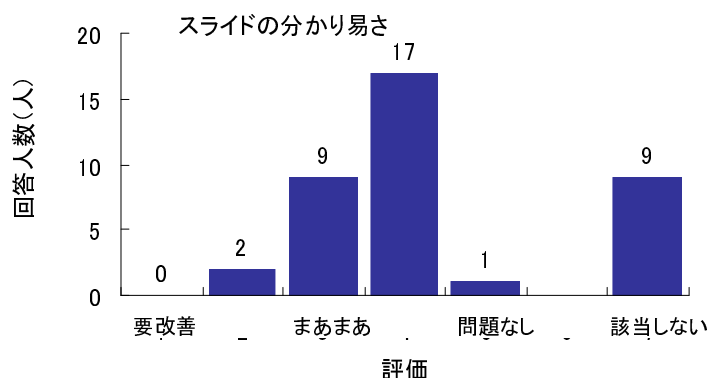
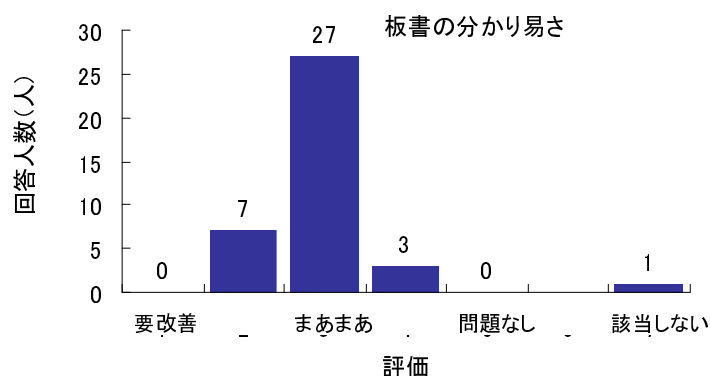
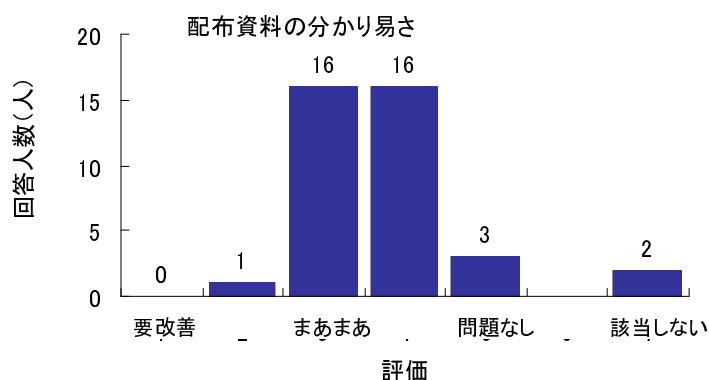
アンケート集計結果およびコメント（アンケート配布様式は別添）



1. 授業計画と講義内容の説明：「説明を行った」24 名、記入なし 1 名

- ・授業の最初に講義内容（もしくは講義の要点）が説明されている。
- ・コーディネータ制の場合（教養英語など）の適切な説明方法について検討が必要。

2. 講義に関する自己評価（母数 38）



2-1. 講義内容への学生の理解度を深めるための工夫：

1) 学生の理解度の把握方法

適宜実施する小テストの成績により把握する (16) ー講義前・後、中間試験の実施。
適宜提出させるレポートの内容により把握する。(5)
適宜学生に質問する (6) ー講義の要所要所で問う。次の講義の冒頭で前回の内容を問う。
シャトルカード(出席カード)の活用 (6) ー質問事項や講義中の難しかった箇所の再解説。
その他 (携帯メールの活用、講義中の学生の反応を見る、等)

2) 学生の理解を深めるための工夫

1. 講義内容の工夫

教科書には無いが、関連する興味を持ちそうな事例や専門的内容を説明に加えた。(3)
必要に応じて演習問題等を行い、解説時間や復習時間を設けた。(3)
演習問題を毎回宿題として課す (希望者のみ) ー解答は次回までに必ず添削し返却している。
実習時期が開講時期と近かったため、実習を意識した講義内容とした。(2)
先年の学生の反応を参考に講義内容や講義方法、スライド内容を変更した。(2)

2. 講義資料の工夫

プリントやスライドに図を多く取り入れている。
授業のまとめのプリントの作製する。(2)
配布資料はスライドの重要なものだけとするなど工夫した。
パワーポイント表示のみではなく、プリントも配布した。
板書やスライドのみでは理解が難しい項目は、実物を用いて解説した。(3)

3. 講義技術の工夫

講義の冒頭の数分間は、前回の講義の要点や今回の講義の要点を話す時間としている。(1)
講義中に質問時間を設ける。また講義後に質問された内容を次回講義で全員に説明した。(2)
小テストの結果等により理解度不足が疑われる場合は、次の回に補足説明を行った。(2)
「あらかじめ教科書を読んでくること」を1回目の授業で強調した。
講義内容に合わせ、敢えて板書スタイルの授業とし、これの書き取りを重視する授業とした。(5)
学生の理解を助けるよう、項目の重要度の繰り返しや講義スピードを調節した。(3)
試験直前に、全体の要点のまとめを再解説した。(2)

3. 成績評価の方法：

1) 学生個々の理解度 (習熟度) を正しく把握するための試験内容や試験方法等の工夫

1. 試験実施時期と実施回数の工夫

講義開始時と終了前に2回の小テストを実施 (3)
中間テスト (8回目の講義時^{など}) を実施。(5)
試験は定期試験で定められた日に実施する。再試験は1度だけ行う。
講義終了後に1週間程度復習期間を設けた後、試験を実施した。(2)
中間試験が集中する時期は、中間試験の実施を避けた (レポートとした)。(2)

2. 試験内容の工夫

記憶を評価する穴埋めではなく、学生の考え方を把握できるような記述式問題とする。(2)
試験問題には、知識を問う問題と理解度を問う問題の両方を用意した。
試験では、出題数を非常に多くして、学生の理解度が得点に反映されるようにしている。
試験は、択一問題や記述問題など様々な問題形式としている。
期末試験の問題は、講義中の演習問題や宿題、質問内容をもとに作成する。
定期試験では小テストでの既出問題を一部再出題し、復習が十分か否かを確認する。

3. 定期試験によらない評価法の導入

レポートの提出 (3)

講義中の自発的な質問、問いかけに対する回答を考慮する。(2)

シャトルカードにおける質問内容・記述内容を考慮する。(2)

2) 試験での不正行為や答案の改ざん防止のための工夫

1. 試験中の不正行為（カンニング等）の防止に関する工夫

複数教員と TA による試験監督。(12)

教室内を頻繁に隅々まで巡回する。(2)

筆記用具以外は机上・机下に置かせない。

不正行為に対する厳格な処罰内容を周知する。

不正行為に利が無いことを周知させる。

記憶力を問う試験内容ではなく、考え方を問う試験内容とする。

2. 答案用紙の試験後の改ざん等の防止に関する工夫

試験結果の問合わせには応じる－答案を見せて解説する。返却はしない。

試験結果の問合わせには応じる－希望者に対し答案を開示し解説する。返却はしない。

試験結果の問合わせには応じる－立会いのもと解答用紙を閲覧させる。返却はしない。

試験結果の問合わせには応じる－点数の告知を行う。返却はしない。

解答用紙のコピーを保存し、答案は返却する。

(別添)

自己評価のための授業調査アンケート

薬学部 FD 委員長 竹内靖雄

担当科目名と 担当回数	1.	()	担当教員名	
	2.	()		
	3.	()		
	4.	()		
	5.	()		

(1) 授業計画と講義内容(およびその変更)について説明しましたか。 ☐ はい ☐ いいえ

(2) 講義内容への学生の理解度を深めるための工夫について、該当する場合に自己評価点をお教えてください。

- | | 今後改善
したい | まあまあ | 特に
問題なし | |
|-----------------------------|-------------|-------|------------|-------------------------------|
| ・ 配布資料の分かり易さ: | _____ | _____ | _____ | ☐ 該当せず |
| ・ 板書の読み易さ、分かり易さ: | _____ | _____ | _____ | ☐ 該当せず |
| ・ 講義で使用したスライドの分かり易さ: | _____ | _____ | _____ | ☐ 該当せず |
| ・ 重要な事項に関する強調方法の適切さ: | _____ | _____ | _____ | ☐ 該当せず |
| ・ 学生の理解度に応じた講義スピードの調節: | _____ | _____ | _____ | ☐ 該当せず |
| ・ 学生の理解度の把握方法について、お教えてください。 | _____ | | | |

・ 学生の理解度を深めるため、特に工夫された事項についてご記入ください。

(3) 成績評価の方法等について、お教えてください。

- ・ 学生個々の理解度(習熟度)を正しく把握するために、試験内容や試験方法、試験の実施時期などについて、工夫された事項をお書きください。

- ・ 試験での不正行為や答案の改ざんを防止するために、工夫された事項をお書きください。

ご協力ありがとうございました。本アンケートはメール添付文書として薬学部 FD 委員 合葉 宛にご送付ください。

資料2

自己評価のための授業調査アンケート（トライアル）の報告

アンケート対象講義

前回：平成 18 年度後期開講講義－アンケート締切日 平成 19 年 5 月 31 日

今回：平成 19 年度前期開講講義－アンケート締切日 平成 19 年 10 月 15 日

アンケート回収状況

前回：回答者 16 名、対象科目数 27

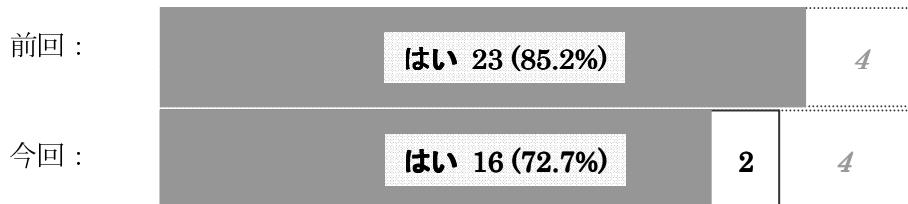
今回：回答者 16 名、対象科目数 22

アンケート集計結果

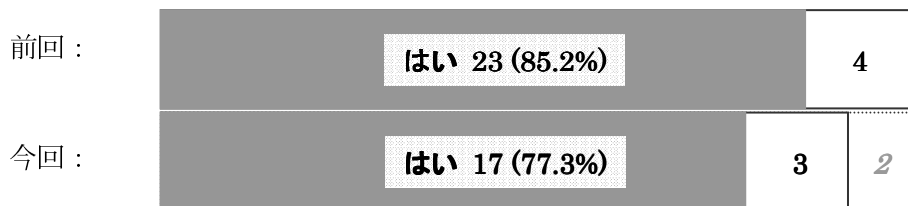
（1）授業計画の説明をしましたか。



（2）シラバスの変更を説明しましたか。



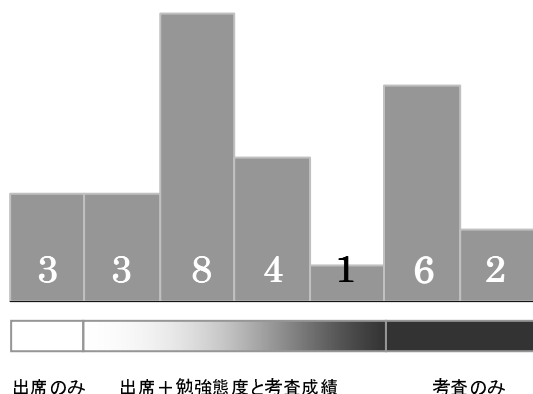
（3）授業改善を目的とした考慮・工夫を行いましたか。



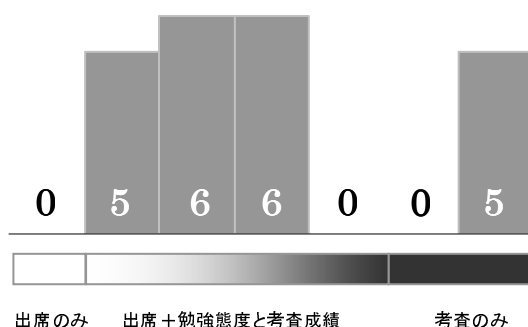
（授業改善の内容に関する評価は「資料 1」参照）

（4）成績評価基準

前回：



今回：



(成績基準アンケート集計表)：前回

グループ要素	要素数	出欠	期末テスト	中間テスト	小テスト	レポート	その他
3	3	○					
	1	○					○
3	1	○			○		
	1	○				○	
	5	○	○		○		
8	2	○	○			○	
	1	○		○	○		
	2	○	○		○	○	
4	2	○	○	○	○		
	2	○	○	○	○		
1	1	○	○	○	○	○	
	5	○	○				
6	1	○	○	○			
	2		○				
2	2		○				

(成績基準アンケート集計

表)：今回

グループ要素	要素数	出欠	期末テスト	中間テスト	小テスト	レポート	その他
5	1	○	○				
	4	○		○			
	1	○		○	○		
6	3	○	○		○		
	2	○	○				○
	2	○	○	○	○		
6	4	○	○		○	○	
	1		○			○	○
5	2		○			○	
	2		○				○

(不正行為を防止する

工夫を行いましたか。

前回：	はい 17 (63.0%)	6	4
今回：	はい 21 (95.5%)		1

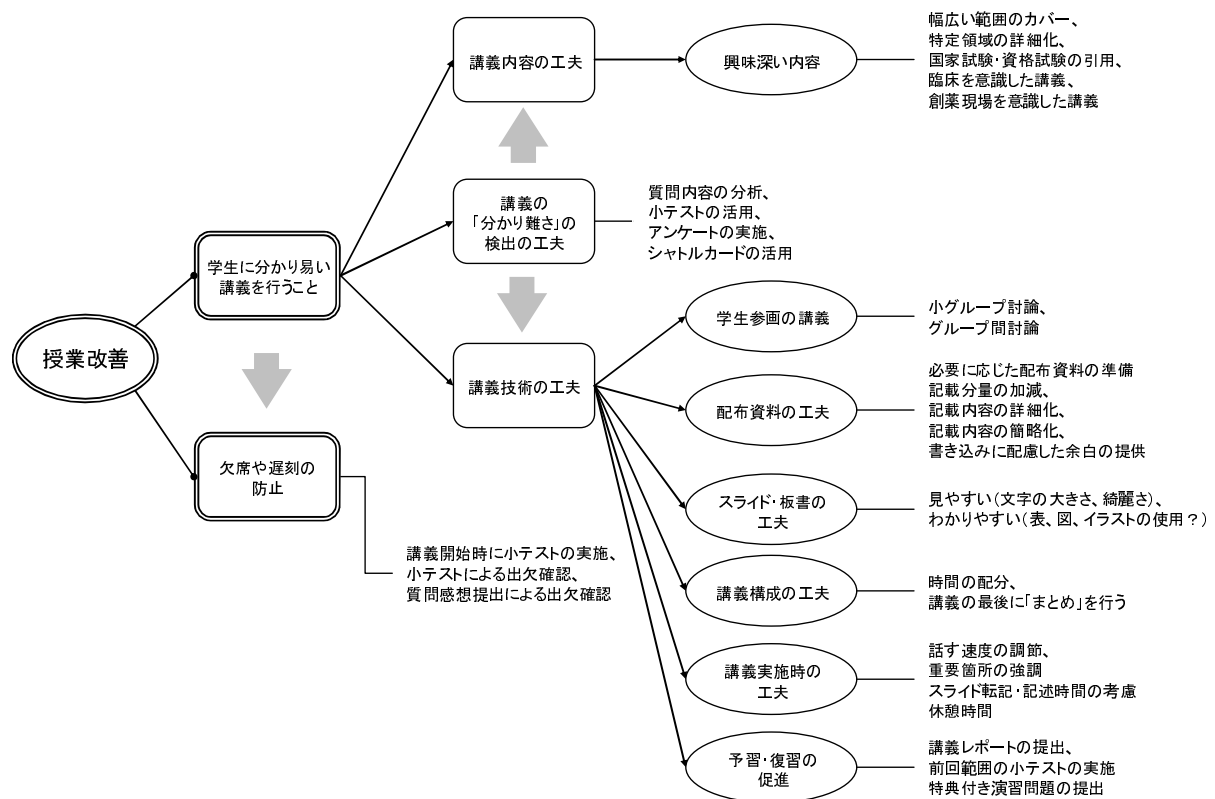
(授業改善の内容に関する評価は「資料2」参照)

(6) 授業公開の状況

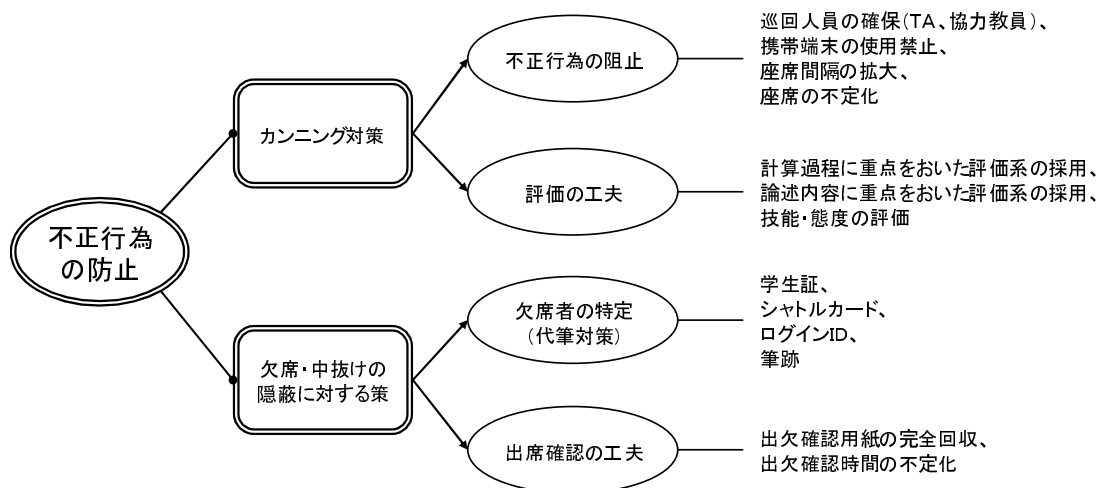
前回：授業公開回数 39回 延べ人数 20名

今回：授業公開回数 35回 延べ人数 39名

資料 1－授業改善に関する自由記述の構造化（案）

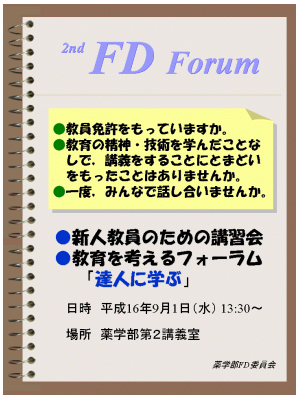


資料 2－不正行為の防止に関する自由記述の構造化（案）

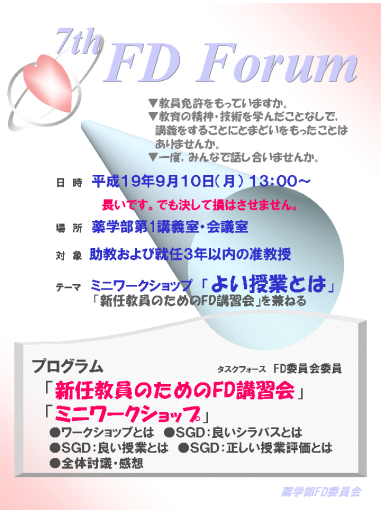
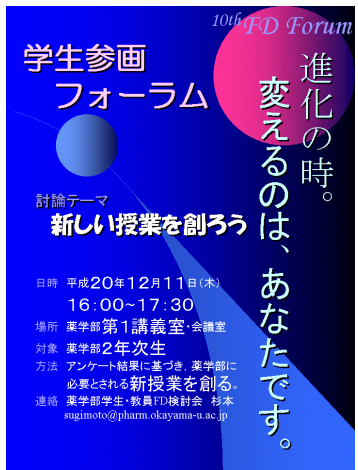


4. FDフォーラムについて（竹内）

平成15年に第三者評価からのFD活動の実績を求められるようになり、「新任・転任教員講習会」を含めたフォーラムを企画・立案した。本フォーラムは、現在進行形で継続されている。

回	日時	内容	ポスター
1	平成15年 9月1日(月) 13:30～15:30	●新任教員のための講習会 「カリキュラムとは」 講師 竹内靖雄(FD 委員会委員) ●教育を考えるフォーラム 総合司会 岡本敬の介(FD 委員会委員長) 「シラバスを考える」 話題提供 竹内靖雄 「教授法・勉学環境を考える」 話題提供 岡本敬の介 「授業評価を考える」 話題提供 綿矢有佑	
2	平成16年 9月1日(水) 13:30～15:30	●新任教員のための講習会 竹内靖雄(FD 委員会委員) ●教育を考えるフォーラム「達人に学ぶ」 総合司会 齋藤 寛(FD 委員会委員長) 達人 亀井千晃教授 達人 川崎博己教授 達人 勝 孝 助教授 達人 吉田隆志教授	
3	平成17年 9月28日(水) 13:30～15:30	●新任教員のための講習会 竹内靖雄 (FD 委員会委員) ●教育を考えるフォーラム「共用試験を考える」 総合司会 佐々木健二(FD 委員会委員長) ・話題提供 「共用試験について」木村聰城郎 教授 「CBTについて」 成 松 鎮 雄 教授 「OSCEについて」 黒 崎 勇 二 教授 ・総合討論	

4	平成 18 年 9 月 27 日(水) 15:30～18:00	総合司会佐々木健二(FD 委員会委員長) ●新入教員のための講習会 竹内靖雄 (FD 委員会委員) ●教員組織の変更について 木村聰城 郎薬学部長 ●メンタルヘルスとその支援 【話題提供】教育実践総合センター塚本千秋 先生 【総合討論】	 4th FD Forum ▼教員免許をもっていますか。 ▼教育の精神・技術を学んだことなしで、 講義をすることにとまどいを感じたこと はありませんか。 ▼一度、みんなで話し合いませんか。 日時 平成18年9月27日(水) 15:30～ 場所 薬学部第2講義室 プログラム 総合司会 佐々木 健二 (FD委員会委員長) 新入教員のための講習会 15:30～16:15 竹内 靖雄 (FD委員会委員) 教員組織の変更について 16:15～16:45 木村 聡城郎薬学部長 メンタルヘルスとその支援 16:45～18:00 【話題提供】教育実践総合センター 塚本 千秋 先生 【総合討論】 薬学部FD委員会
5	平成 19 年 3 月 8 日(木) 13:00～16:30	●「チュートリアル授業の理解のため に」 総合司会佐々木健二(FD 委員会委員長) 「ミニワークショップ」 ・ ワークショップとは・問題提起・SGD・ミニ レクチャー・SGD ・発表・全体討議 【タスクフォース】医学部医学科大塚愛二先 生	 5th FD Forum ▼教員免許をもっていますか。 ▼教育の精神・技術を学んだことなしで、 講義をすることにとまどいを感じたこと はありませんか。 ▼一度、みんなで話し合いませんか。 日時 平成19年3月8日(木) 13:00～ 場所 薬学部第1講義室・会議室 テーマ 「チュートリアル授業の理解のために」 プログラム 総合司会 佐々木 健二 (FD委員会委員長) 「ミニワークショップ」 ●ワークショップとは ●問題提起 ●SGD ●ミニレクチャー ●SGD ●発表 ●全体討議 【タスクフォース】 医学部医学科 大塚 愛二 先生 薬学部FD委員会
6	平成 19 年 6 月 26 日(火) 14:00～16:00	●「学生のメンタルヘルス」 講 師 保健環境センター 大西 勝 先生	 6th FD Forum ▼あなたが感じている悩みの、あなただ けの悩みでしょうか。 ▼一度、みんなで話し合いませんか。 日時 平成19年6月26日(火) 14:00～16:00 場所 薬学部第3講義室 テーマ 「学生のメンタルヘルス」 講 師 保健環境センター 大西 勝 先生 ご講演（約1時間）の後、総合討論を行う予定です。 薬学部FD委員会

7	平成19年 9月10日(月) 13:00～17:30	●「新任教員のためのFD講習会」 ●「ミニワークショップ」 タスクフォース FD 委員会委員 ・ワークショップとは・SGD:良いシラバスとは・SGD:良い授業とは・SGD:正しい授業評価とは・全体討議・感想	 7th FD Forum ▼教員免許をもっていないですか。 ▼教育の精神・技術を学んだことなしで、講義をすることなどまどいをもったことはありませんか。 ▼一度、みんなで話し合いませんか。 日時 平成19年9月10日(月) 13:00～ 長いですが、でも決して損はさせません。 場所 薬学部第1講義室・会議室 対象 助教および就任3年以内の准教授 テーマ ミニワークショップ「よい授業とは」 「新任教員のためのFD講習会」を兼ねる プログラム タスクフォース FD委員会委員 「新任教員のためのFD講習会」 「ミニワークショップ」 ●ワークショップとは ●SGD:良いシラバスとは ●SGD:良い授業とは ●SGD:正しい授業評価とは ●全体討議・感想 薬学部FD委員会
8	平成20年 9月24日(水) 9:00～12:30	●「CBT 試験問題作成と精選」 薬学部CBT委員会主催	
9	平成20年 10月22日(水) 15:00～17:30	総合司会佐々木健二(FD委員会) ●新任・転任教員講習会 竹内靖雄(FD委員会) ●ハラスメントを防ぐには 埴岡伸光(学生生活委員) ●高校との信頼関係を構築するには 【話題提供】ベネッセコーポレーション木野内俊典先生	 9th FD Forum ▼教員免許をもっていないですか。 ▼教育の精神・技術を学んだことなしで、講義をすることなどまどいをもったことはありませんか。 ▼一度、みんなで話し合いませんか。 日時 平成20年10月22日(水) 15:00～ 場所 薬学部第1講義室・会議室 プログラム 総合司会 佐々木 健二 (FD委員会) 新任・転任教員講習会 15:00～15:30 竹内 靖雄 (FD委員会) ハラスメントを防ぐには 15:30～16:30 埴岡 伸光 (学生生活委員) 高校との信頼関係を構築するには 16:30～17:30 【話題提供】ベネッセコーポレーション 木野内 俊典 先生 薬学部FD委員会
10	平成20年 12月11日(木) 16:00～17:30	●学生参画フォーラム テーマ 新しい授業を創ろう 対象 薬学部2年次生 方法 アンケート結果に基づき、薬学部が必要とされる新授業を創る。 連絡 薬学部学生・教員 FD 検討会 杉本	 10th FD Forum 学生参画フォーラム 進化の時。 変えるのは、あなたです。 討論テーマ 新しい授業を創ろう 日時 平成20年12月11日(木) 16:00～17:30 場所 薬学部第1講義室・会議室 対象 薬学部2年次生 方法 アンケート結果に基づき、薬学部が必要とされる新授業を創る。 連絡 薬学部学生・教員FD検討会 杉本 sugimoto@pharm.okayama-u.ac.jp

5. FDの未来（竹内）

平成19年の大学院設置基準に引き続き、平成20年には大学設置基準の改正によって、いわゆる、[「FDの義務化」](#)が制令化されました。設置基準上のFDの定義は、「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」となっています。これにより、FD委員会の活動は、大学教育における欠くべからざる重要項目を取り扱う組織として、その位置は堅固なものとなりました。

ゆとり教育が追い討ちをかけた「学力の低下」や少子化による「大学への全入時代到来」により、学生の中から優秀な人材を見だし、専門家としてのエリートを育むようなかつての大学における教育体制は、大学院教育のそれへと移行しました。現在の大学教育の目標は、「[専門性のある一般教養を有する学生の育成](#)」であり、その手段として必要なものは、底上げ教育を基盤とする「[FDリテラシーの取得](#)」と考えます。これは、現行のFD活動を中心にしたPDCAサイクルに順じた教育改善の継続で、着実に進化できるものと思われま

す。一方、大学院教育では、「専門家としての基礎的な知識・技術・態度を有する大学院生の育成」へと吊上げ教育を基盤としつつも、これに対峙するように制定された「FDの義務化」の解釈と実質化が大きな問題といえます。大学教育では、教養教育科目が、各部局間におけるFD活動の進捗歩調を合わせる共通項としての役割を果たしていましたが、大学院教育の必然的な専門性や多様性の中にそれを見出すことはきわめて困難と言えます。さらには、大学院設置基準で制定された「FDの義務化」に関しては、授業評価アンケート、新任・転任FD研修会、あるいは全学規模のFD研修会等のような今日では[形態化しつつあるイベントの量産ではなく](#)、それぞれを大学院用のそれとして抜本的に見直し、[高質化に焦点をあてる](#)べきと考えます。大学教育と大学院教育とは、それらの到達目標が大きく異なる以上、大学院のFD活動に大学教育のそれを無担保に充てることは、到底、賢明な戦略とは思えません。より高度化を求められる大学院の教育、そしてそれを示唆するFD活動とは何か。現場を知る教員と十分にコミュニケーションし、検討と検証を繰り返すことによって探って行くことが、大学院教育の特色を立案し形成できる最良かつ最短の方法であると考えます。

「改善なくして教育なし」は、「[検証なくして改善なし](#)」が根幹となります。学びの主権者である学生に対し、教育の改善に責任を負うのは大学です。そして、この改善のための検証資源に高質な信頼性を担保するのがFDの役割です。FD活動は、授業を受ける学生、授業を担当する教員、さらに、それを支える職員の理解と協力なしでは、脆弱化を招きます。未来のFDの扉は、[大学構成員すべての改善に対する相互理解](#)によってのみ開かれるものと考えます。